Newsletter from the Free workers' federation

自由労働者連合

la Federacio de ChifonProletoj

BOTTOMS

第 20 号

Winter, 2021

8･6広島集会報告（2019年8月5日～6日）

鷲尾 拓

1．8月5日13時～　軍都広島フィールドワーク

大阪から参加した我々は、8月4日の夜に大阪を発ち、一路広島へ。参加者は数名。大阪府豊中市議会議員 K さんの宣伝カーを借りたため、色々な意味で注目を浴びた様子。Mさんの運転で翌5日朝に広島到着。参加者のKちゃんが作ってきた「油かす」等で朝食を済ませ、集合場所の広島駅へ。

目印は広島駅前の「黒旗」だったが、誰も持参していなかったため少し混乱。関東から来られたＳさんがたまたま持っていた黒いタオルを目印に集合。関東と関西から12名の参加者が集まり、気温36度を超える炎天下、広島駅から広島港に向けて南下していくルートに沿って、日清戦争凱旋碑、陸軍糧秣支廠跡、陸軍運輸部船舶司令部（通称「暁部隊」）跡地、陸軍桟橋跡、似島（宇品港からフェリーで渡航）の陸軍弾薬庫跡・船着き場跡など「軍都広島」の戦跡をたどった。移動は広島市内を走る路面電車と徒歩。

メチャクチャ暑い晴天で、筆者が使った路面電車の「一日乗車券」は汗のために原型をとどめないくらいにボロボロになった。

2．8月6日7時～　平和祈念公園 ビラまき・情宣活動・デモ行進

5日夜、我々はインターナショナルなお客さんの多いゲストハウスに泊まった。翌朝6日、起きるとSさんが行方不明。オートロックの番号を忘れて部屋に戻れなくなったらしい。何とか発見されたが、平和祈念公園にはギリギリ到着。

原爆ドーム前で様々な団体と並んで黒旗を立て通行人にビラを配布。15名程が参加。すぐに在特会系右翼・地元の右翼連中が（警察官に守られながら）妨害・攻撃を仕掛けてきた。我々は黒旗の周囲に結集して右翼と対峙。トラメガでKちゃんが「右翼は出て行け！　ヤツらを通すな！」と反撃開始。現場は騒然となり、人だかりができ警察官が壁を作る。8時15分の黙祷が始まる

と、更に「アベは出て行け！　黙祷粉砕！　広島の心を忘れるな！」と叫び、広島市職員が「黙祷の間だけは黙っていてくれ」と制止すると仲間は次のように叫んだ。「あなたは誰のために黙祷をするのか。死んだ人の名前を言ってみなさい。言えないじゃないですか。あなたは悲しんでいるふりをしているだけ。だまされちゃいけない。あの戦争屋のアベがいるんです。抗議しなくちゃだめでしょう。広島の心を忘れちゃだめだ！」。この抗議行動後、再び右翼が押し寄せ、「同じ日本国民なら黙祷の間は黙っていろ。できないなら日本から出て行け。騒いだやつを出せ」と詰め寄ってきたが、我々は再び黒旗のもとに集結して対峙し続けた。戦争を推進する国家と右翼が、「同じ国民」へと個人を回収する装置として平和祈念式典を利用していることが暴露された一幕であった。

休憩後、やや強めの雨の中、黒旗を掲げて市内をデモ行進。「戦争屋アベは出て行け！　被爆者には従軍慰安婦もいたぞ！　全ての基地を撤去しろ！」といったシュプレヒコールが市内目抜き通りにこだました。

3．8･6集会　8月6日13時～　報告会・質疑応答

参加者19名。第1報告では、個人が国家に絡め取られた状況からいかに国家に対抗していくかが論じられた。第2報告では、筆者が「暁部隊」に所属していた祖父母に関する記憶を語った。第3報告では、戦前の軍隊が底辺労働者や日本人・朝鮮人の囚人を酷使することによって成立していたことが映画『花と龍』などの映像を交えながら論じられた。第4報告では、解決不可能な問題に向き合った個人の内面で「内破」が起きた時、そのような状況をくぐり抜ける行動が起きるという仮説が論じられた。第5報告では、象徴天皇制・靖国神社と対比させて、「平和」のための「祈り」を「下からの国民統合」と位置づけ、「広島平和幻想」を解体していくことが提起された。

活発な質疑があり、報告はおおむね好評であった。集会終了後、懇親会が開催された。

我々は6日夜から大阪へ向かい、7日朝に全員が無事に帰還した。

権力者や専門家に身を委ねず、飛び出せ青空へ！

非常事態宣言下で黒旗を掲げて、メーデー～反天憲法集会を戦取！

浦底平吹

新型コロナウィルスCOVID-19のパンデミックは1億人もの人々を感染させ、200万人を超える人命を奪っている。なおその猛威は衰えるどころか次々に変異を遂げながらウィルスとしての生存戦略を鍛え続けているかのようだ。ウィルスvs人類という繰り返し描かれてきたSF映画や小説のような世界が来ることをどれだけの人々が予測していただろうか。

およそこのパンデミックによる影響と制約を受けずにコロナ前と変わらぬ社会生活を送っている者など一人もいないだろう。そして世界中の多くの人々はコロナ後の世界のプランや構想がどうあれパンデミックの早期終息を願っており、ウィルスの変異にも適応し得るワクチンや治療薬の開発を望んでいる。

しかしながら、このパンデミックは自然災害や戦争がそうであるのと同じく、全人類が平等に被害を受ける訳ではない。資産家は政府の号令に従い、遊びに行かずに「不要不急の外出」を控えて「ステイ・ホーム」しながらコロナ禍あるいはコロナ後の儲け話を探り、家にPCとネット環境さえあればオフィスに行くことを減らせるデスクワーク系の労働者は「在宅ワーク」で感染リスクを減らすことも出来るだろう。しかし、生活するために日々出勤しなければ忽ち生きる糧を失う多くの労働者や小規模経営者は、感染リスクに日々曝されながら働き続けている。そして、景気悪化にともなう所得の減収、解雇・失業、休業や倒産により、じわりじわりと持たざる人々は社会の底辺へと追い込まれていく。

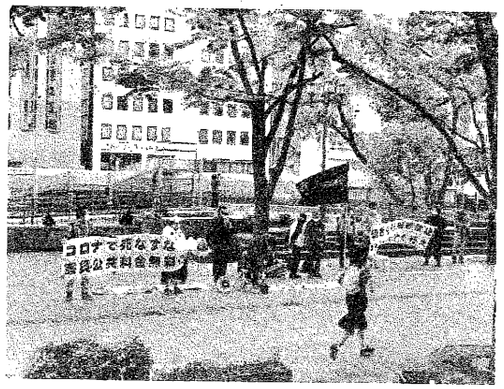
真に闘いを必要とする持たざる人々とともに！5・1メーデー青空集会の報告

昨年春の第1波により緊急事態宣言が発出され、街はゴーストタウンと化した。全国各地の労働運動や市民運動の多くが「感染リスク」を考えて集会を中止するか規模を縮小し、デモは街頭から姿を消した。釜ヶ崎の一部では、命の糧である炊き出しまでクラスター化を恐れて自粛する始末だ。ナルヒト即位の日を5・1メーデーにぶつけられても牙も剥かずに「平常運転」した中之島メーデーも例外ではない（唯一、現代天皇制に対する徹底抗戦をメーデー壇上で呼びかけたF同志を除いて）。「緊急事態宣言」にともなう外出制限や自粛要請が戦時的な国民総動員体制への予行演習とひとつながりになるものというのに。これら社会運動の主流がかつての戦犯天皇ヒロヒトXデー期の自粛ムードに概ね抵抗しなかった時期以上の羊っぷりに辟易としながらも、そもそも外出を「自粛」して「ステイ・ホーム」していては忽ち食べていけなくなる多くの働く仲間たちやそもそも「ステイ・ホーム」する家すら持たない野宿の仲間たちにこそメーデーが必要なのだということを再認識した。

私たちは一部の権力者や「専門家」「識者」なるものに身を委ねて思考停止するべきではないし、個々に分断解体されて黙って死を待つことを望まない。むしろ今こそ持たざる人々が団結して街頭に集まり顔を突き合わそう。この未曽有の事態に対して互いに知恵を出し合い、議論し、私たちを切り捨て貧困へ死へと追い落とす連中に対して広範な闘いを準備しなければならない。目の前の医療福祉や給付金、生活補償など諸現場の様々な要求綱領のさらにその先にあるものを議論し、コロナ後の世界までをも視野に入れた私たちの未来を展望していこう。こうした思いを共有する釜ヶ崎パトロールの会、自由労働者連合、梅田解放区の有志が集まって「飛び出せ青空へ！5・1メーデー実行員会」が結成された。

5月1日、大阪市役所前に集ったメーデー参加者は約50名。フリーター全般労組が駆け付けたほか、茨城反貧困メーデー実行委員会からは連帯アピール文が寄せられた。また、関西各地で中止になったメーデーに忸怩たる思いを持つ労働者や釜ヶ崎センター開放行動、関西単一労組、留学生、在日の仲間が続々と集い、リレーアピールをおこなった。その後、青空討論会をおこない、コロナをめぐる現状分析から政策批判、グローバル資本主義の動向、今後の闘いの方向性まで幅広く問題提起が為された。

パンデミックが未だに収束しない現在、権力者や一部専門家などに身を委ねることなく、私たち労働者民衆が自分たち自身で考え、分析し、話し合い、行動しよう。そして、それら諸々の活動の積み重ねの中からともに展望と戦略を編み出していきたい。



天皇条項削除を掲げる5・3憲法集会・デモを約80名の仲間たちで貫徹！

また、従来の5・3憲法集会も中止される中で、着々と推進される天皇代替わりによる新たな天皇制強化に対して真っ向から対峙することを標榜し、憲法の天皇条項（第1条から8条）の削除を訴える5・3憲法集会を扇町公園にて開催した。関西各地から約80名の仲間が結集し、集会の後に梅田までデモ行進を貫徹した。

アナキストとして主催に多く関わる憲法集会などこれまでその思想的立場からもあり得なかったわけだが、戦時体制化にも通じる非常事態宣言下で天皇制廃止を掲げるこの反天憲法集会を開催したというのは、55年体制を引きずるいつもの護憲派・改憲派の二項対立軸に対する一つの石礫となる闘いであっただろうし、これからも憲法云々する前提として天皇条項削除（天皇制廃止）を俎上に載せていくべきだと思う。

新山初代の墓を訪ねて

辺銀　早苗

昨今「谷・根・千」が観光名所となり、多くの人が訪れるようになった。「谷・根・千」とは、谷中・根津・千駄木という街名を繋げて称しているもので、ブームになる以前から森まゆみさんが地域誌の「題」として使用してきた。この地域は明治大正からの文人墨客たちが住んでいた寺町でもある。しかし観光スポットとなっているのは、そことはあまり関係なく残念ながら下町風情を味わい、ちょっとお洒落なお店を覗き見るという人が殆どである。元々上野にも近く猫なども多い静かな町であった。たしか吉本隆明さんも千駄木辺りに住んでいた。この地からさほど遠くないところに「労働運動社」もあった。樋口一葉も駄菓子屋をやりながら暮らしていたと、何かで読んだ記憶がある。同じように雑貨駄菓子屋を営んだ新山初代も暮らしていた。二人とも短命で死んでいった。

JR日暮里駅北口から、「夕焼けだんだん」を下り少し遠回りになるが新山初代のお墓を訪ねた。

新山初代は余り知られていないが、金子文子との関りで知られるようになった。2019年に韓国映画「金子文子と朴烈（パクヨル）が全国で上映され、金子文子「何が私をこうさせたか」も岩波文庫に収められた。「第2の大逆事件」を知る機会も広まったと思う。村木源次郎が肺を患ったように、新山初代も肺を病んでいた。肺を患うという事は、影は肺だけでなく「思想」にも影を落とすのであろうか。新山初代の墓は台東区谷中1丁目6番26号天台宗光雲山「法蔵院」にある。

新山初代は1902年小石川冨坂町で父・源次郎、母・せんの長女として生まれた。妹は2人いた。父は下宿屋を営んでいたが1916（大正5）年に亡くなり、以後母親の手で育てられた。1920年府立第1高等女学校を優秀な成績で卒業した。途中半年間実家のあった新潟で肺病の養生生活を送った。その後、日本橋河岸三井3号館4階木村商事事務所にタイピストとして働きだした。同時に正則英語学校夜学に通学した。以降仕事を辞め母親とわかれ、駒込蓬莱町16（現・文京区向ヶ丘2丁目）の一軒家を借り2階を間貸しし1階で雑貨駄菓子店を営んだ。この正則学校に通っていた頃同じく通っていた金子文子と知り合いになった。新山は金子に『労働者セイリョウフ』（未見）の本を貸したり、ベルグソン・スペンサー・ニーチェ・ヘーゲル・シュティルナーなどの思想の紹介をしたりし影響を与えたといわれている。

以降年譜風に書き留めておく。

1923年5/21◆朴烈、新山初代宅を訪問　不逞社への入会を勧める
〃　5/27◆不逞社第1回例会　朝鮮の運動がテーマとなる
〃　6/10◆不逞社第2回例会　望月桂を招き講演「アナキスト革命運動」
〃　6/17◆不逞社第3回例会　加藤一夫を招き講演「革命理想及び革命時の組織」
〃　9/26◆朴烈、中西伊之助出獄を出迎える
〃　6/28◆不逞社第4回例会　中西伊之助出獄歓迎会

〃　7/15◈不逞社第5回例会　親日派の「東亜日報記者」を殴る
〃　7/末◈大杉栄を訪ね 8/6 の黒友会（会場は新山卓）での講演を依頼する。しかし当日大杉は現れなかった
〃　8/ 8◈黒友会主催「朝鮮問題講演会」神田基督教青年館で開催
〃　8/10◈黒友会臨時例会　解散を決める。金重漢（キム・ジュンハン）が朴烈による爆弾計画の話を暴露
〃　8/11◈不逞社第6回例会　馬山のストライキの話題　朴烈と金重漢と論争
〃　8/18◈自由人社で大杉栄のフランス行きの話があり聞きに行く
〃　8/20◈根津権現の貸席で大杉・望月桂・岩佐作太郎等2～30名が集まり無政府主義者の連合組織問題の相談会へ行く。朴・金子らは来ていなかった。
〃　8/29◈警視庁内鮮係の太宰と云う人が新山宅を訪れ思想や交際の範囲を聞いてくる
〃　9/ 3◈朴烈・金子文子・金重漢・新山初代ら不逞社のメンバーが検束されていく
〃　11/27◈新山初代死亡

※左写真は新山初代、右写真は金子文子

結局、新山が不逞社と関りをもったのは4ヶ月に満たない短い期間であった。そもそも不逞社とは 1923 年 4 月頃朴烈・金子文子が相談し洪鎮裕らに計画を話し 4 月中旬に朴・金子の家で設立が決まった。同人には他に金徹（キム・チョル）・陸洪均（ユク・ホンギュン）・林冷（パク・ネン）・鄭泰成（チョン・テソン）・徐東星（ソ・ドンソン）・永田圭三郎・小川武・崔圭悰（チェ・ギョチョン）・李弼銃（イ・ピルヒョン）・徐相庚（ソ・ッサンキョン）・河世明（ハ・セミョン）・その後参加したのは崔英煥（チェ・ヨンホァン）・金重漢（キム・チュンハン）・張祥重（チャン・サンジュン）・朴興伸（パク・フンシン）・金永驊（キム・ヨンホア）・韓晛相（ハン・ヒョンサン）・新山初代・野口品二・栗原一男ら 23 名であった。社会に抵抗感を持つ朝鮮人や日本人を結集する事を目指した。大衆団体に留まり直接行動は個々人の意志にまかせた。

それに遡って在日朝鮮人の運動として 1921 年に黒濤会が結成されたが民族主義者や社会主義、無政府主義者等雑多な集団であった。しかし 1922 年 9 月末解散に至った。当時のアナボル論争の影響が大であった。

1923 年に共産主義者は「北星会」を無政府主義者は「黒友会」を組織した。黒友会のメンバーは後の「不逞社」と重なる人が多い。とまれ在日朝鮮人の社会運動は、現在不勉強なのでまた別の機会に設けたいと思う。

『報知新聞』1923 年 12 月 2 日夕刊の記事に新山の死が報道された。

●●事件に絡む女性　新山初代獄死す　今日谷中で淋しい葬式
残った母親の痛ましい繰言某重大事件に連座して震災以来囚われの身となっていた新山初代（22）ついてはさきに報道したが獄中哀れにも病疾の肺結核が昂じて去る 28 日未明の裁きをまたず芝区協調会病院で死去した。遺体は荼毘にふし今 2 日午後 1 時谷中の寳（法）蔵院に於いて形ばかりの葬儀が営まれた。…実母が杖とも柱とも頼んでいた初代の遺骨を抱えて幼き 2 人の妹と共に悲嘆に暮れながら語る「涙一滴こぼしたことのない気丈な初代も、さすがに臨終の時は涙を流して申訳ありませんといいつづけ、あとは正気もなくうわ言をいって息が絶えました。…」と正体もなく泣き崩れ仏前に親子 3 人の外にただ 1 人初代と府立第 1 高女の同級生だったという娘が「初代さんの性格は私は誰よりもよく判かっています。真紅な血でベッドを染めて息絶えた初代さんの臨終が思われます」と死の枕辺には悲痛な遺書が 1 通置かれてあった。

新山は検束されてからわずか 3 ヶ月弱で亡くなっている。しかしその間朴烈から知り得た計画を自供してしまった。何がそうさせてしまったのかはわからない。朴烈・金子文子と金重漢・新山との関係の中で齟齬が生じたのが原因ともいわれている。しかし他の一因として自身の知っていた深い絶望感にも関係しているのかもしれない。

金子文子は新山初代が亡くなってもその友情は絶えなかった。獄中で書かれた『何が私をこうさせたか』にも新山初代への思いが散見される。

亡き友の霊に捧ぐる我が想い

思い出深し 9 月 1 日

＊金子文子の獄中歌　亡き友とは新山初代

（了）

ビンタと立ち小便

～1930 年代台湾の各新聞、『チョプスイ』に見る日本人の醜態と八紘一宇～

金羽木徳志

台湾浮浪者取締規則の第一条には、「知事又は庁長は、一定の住居又は生業を有せずして公安を害し、又は風俗を乱すの虞ありと認むる本島人に対し其の定住又は就業を戒告することを得る旨を定め」と書いてあります。つまるところ、日本政府及び台湾総督府は原住民たちの生活スタイルを取り締まりの対象としたわけです。下関条約で日本と清国との間で台湾の今後を勝手に決めて乗り込んできて、原住民たちの生活スタイルについてこんなことを言われても、原住民たちには理解できなかったに違いありません。しかし、原住民たちをこのように悪しざまに言う日本人たちはどうだったのかと言えば、その実態は原住民たち以上に公安を害し、風俗を乱すものでした。

1930 年代の植民地台湾での日本人たちの醜態

竹中信子が書いた『植民地台湾の日本女性史』（田畑書店）を読んでみます。

民政後まもなく発行された台湾新報の三面記事は、無教養で恥知らずの日本人の醜行で埋められるようになる。もちろん、もともと三面記事なるものが興味本位の記事の寄せ集めであったから当然と言えば当然と言えなくもないが、それにしても、あまりにもひどい。相次ぐ官吏の汚職事件、休日の兵士や軍属、職人たちは集団で台湾人の果樹園で蜜柑を盗ったり、砂糖工場に入って砂糖を盗み出すかと思うと個人商店の店先の物を奪う。抗議でもしようものなら下駄で顔を蹴ったり寄ってたかって暴力を加えて怪我をさせたり商品をひっくり返す。職人同士が娼婦の取り合いで刃傷事件をおこす。酒に酔って高言放歌、乱暴を働く。番頭や店員が店の金を使い込んでは解雇広告を出される。

さらにこの本に引用されている 1898 年 11 月発行の『台湾協会報』には、台湾人と比べて日本人の恥ずべき習慣としてあげた言動は、一、暴力をふるうこと。何かというと鉄拳の雨を降らせる（台湾では、親子、師弟の間以外体罰は許されない。先に手を出した者がいると、その者が制裁される）。二、泥酔。酒を飲んで高言放歌、醜態を演じる。花柳界のそこここで泥酔者の姿が見られ威信のかけらもない（台湾人は人前で酔っ払って自制心を失った姿を見せることがない。日本人の泥酔禍は

台湾人の阿片禍に比べてもさらに悪い、という批判もある。日本社会の酔いどれの醜態は、維新後増えてきたものである。明治初期の日本人は、街路でアルコールの匂いをさせない世界でも珍しい国、と外国人に称賛されている）。三、裸体。暑い、といって日本人は男も女も褌や腰巻一丁だけの姿を人目にさらしても平気である。氷屋をしている日本人は、暑いからと夜、店の前にゴザを敷き、夫婦で生まれたままの姿で眠り込み、まわりを台湾人にかこまれ嘲れているところを通りかかった警官に注意された。台湾人は苦力などの労働者が仕事によって半裸になるくらいで、台湾女性は女中や下層の女にいたるまで衣服を整えていて、髪を乱すということがない。内地の茶摘み女の身だしなみのだらしなさと対照的だと言われている。地方の村庄の弁務署では、暑さのため官吏のことごとくが浴衣一枚で勤務していて風紀上も見苦しいと書かれていることもあった。

これまで台湾原住民に対する浮浪者対策を書くたびに果たして本当にこのような対策を原住民に強いていたのかどうか自分でもわからなくなることがあります。台湾浮浪者取締規則の第一条には公安を害し、風紀を乱す虞がありと書いてはあるものの、『人足寄場史』に台東開導所、つまり浮浪者収容所のことについて書いた安平政吉は公安を害し、風紀を乱す虞がある具体的事例について何も書いていないのですから。それでも 1897 年（明治 30 年）前後に次々と発刊された『台湾日日新報』や『台湾民報』、『台北日報』、『台南新報』などを探せば、原住民が公安を害したり風紀をみだした事件はあることでしょう。しかし、結果として具体的事例について何も書いていない安平政吉よりも当時の新聞を引用して日本人が公安を害したり風紀を乱した事件の具体的事例を書いた竹中信子の方が読み手に伝わることは明らかです。

それにしても台湾で引き起こした日本人たちの乱暴狼藉、傍若無人ぶりはどういうことなのでしょうか。中野正剛代議士は、台湾の統治がうまくいかないのは台湾人を天皇陛下の同じ皇民としてちゃんと接していないからだ、と力説しましたが、誠心誠意をこめて何をどう言おうとふるまおうと、そもそも台湾にいる日本人たちの言動そのものにまったく説得力がなかったのです。ある日突然、台湾に押しかけて来て、酔っ払って騒いだり刃物を持ち出して喧嘩をしたり、泥棒したり、男も女も暑い！暑い！と言って裸でうろつき、道端でそのまま寝ている日本人たちの姿に台湾人たちは驚いたことでしょう。

そして、そんな日本人たちが信じている天皇とはいったいどのような神さまなのか不思議に思ったに違いありません。少なくとも神や仏を意識するなら（神さまや仏さまがいつも見守ってくださっているなら！）、こんなメチャクチャなことはし

ないはずです。日本人がどんな神さまを有難がっているかは日本人の勝手です。しかし、それを台湾人に同じ皇国臣民として信じろ！頭を下げろ！と強いられても台湾人の目に映るのは日本人の醜態ばかりなのですから、土台無理な話というものです。と、このように書くと当然ながら、日本の末永仁農業技師は台湾で米も作ったし、八田興一は当時のアジアでは最大のダムも設計したじゃないか！学校も作ったじゃないか！悪いことばかりではないだろう！と反論が返ってくるでしょう。しかし、いくら日本が台湾で良いことをしようと、蜜柑園を荒らしたり、店の物をひっくり返して台湾人を袋叩きにした事実は何も変わりませんし、むしろ、そのような日本が台湾で行った良いことをした事例を持ち出して反論する方がどうかしています。

シンガポール占領期の日本人の「文化」～ビンタと立ち小便

日本による傍若無人ぶりは台湾だけではありませんでした。シンガポールを占領した日本人たちの乱暴狼藉、傍若無人を描いた『チョプスイーシンガポールの日本兵たち』（劉抗著、　中原道子訳／めこん）にこのような解説があります。

チン・キーオンは日本占領時代にマラヤの人の目に映った日本の「文化」について、２つのことをあげている。その１つは、ビンタという公衆の面前での侮辱であり、もう１つは、あらゆる場面での、人目構わぬ立小便である。

このチョプスイには市バスから立小便をしたり街中でビンタを張る日本兵を描いてありますが、マラヤの人にはビンタというのは、日本式の挨拶ではないかと言うほど誰かれ構わずビンタを張っていたということです。これはフィリピンでもそうですが、ビンタを張るというのはその人に対する最大の侮辱です。日本人にすれば酔っ払って騒いで放歌することも（飲んだ後の二次会はカラオケです！）、ションベンガードと言うくらいそこら中で立小便をしたり、ゲーゲー吐いたり、頭にきたら口より先に手が出るくらいビンタは当たり前ですが、台湾やフィリピン、シンガポールの人たちはそうではないのです。

チョプスイを訳した中原道子はマレーシアの友人を東京案内した時、日本人同士がお辞儀をする姿を見て「日本人同士でもお辞儀をするのね」としばらく見とれていたと書いていますが、そのマレーシアの友人の父親は戦争中、日本兵に１度最敬礼が悪いとビンタを張られていました。マレーシア人というのは人と握手をした時、相手の心を自分の心に受け入れる意味をこめて握手している手を自分の胸に軽く当てたり、人に物を渡す時には両手で渡すほど礼儀正しい民族のようです。このような人たちにとってはたった１度のビンタであっても生涯忘れることのできない

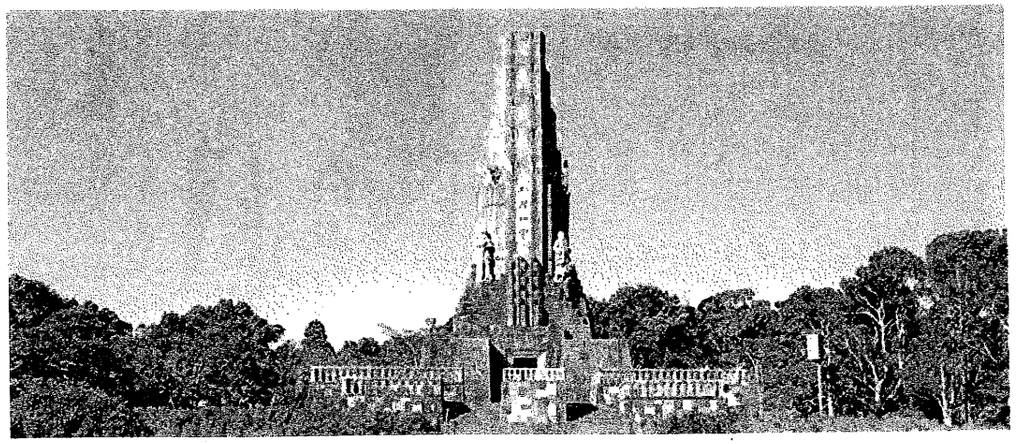
最大の暴力であり侮辱だったのです。

八紘一宇、万里の長城で小便すればゴビの砂漠に虹が立つ

その極めつけが 1940 年頃から誰かによって歌い広がった「八紘一宇、万里の長城で小便すればゴビの砂漠に虹が立つ」ではないでしょうか。

ここで私が言いたいのはこんなハレンチな歌を八紘一宇として恥ずかしげもなく歌った日本人の乱暴狼藉、傍若無人に対して台湾やフィリピン、シンガポールの人たちの礼儀正しさを対置してみせることではありません。対置したところでだからどうなのでしょうか。そうではなく、日本人の乱暴狼藉、傍若無人が占領され植民地支配を強いられた人たちからどのようにみられているのかが何故みえなかったのかということです。暑い！暑い！と言って裸で道端で寝ている姿が台湾人から嘲られているにも関わらず、これはみっともないからと態度を改めようと何故ならなかったのでしょうか。いえ、態度を改めようとしなかった日本人がいなかったとは言わないし、そんなことは言っていません。中には品行方正な日本人もいたでしょう。

しかし、これが決して過去のことではなく、今からおよそ 30 年前、じゃぱゆきさん、あるいはアジアからの出稼ぎ労働者の前でさすがに道端で裸で寝ることまではしなくても、やはり酔っ払って騒ぎ、そこら中で立ち小便をしたり、ゲーゲー吐いたり（飲みすぎ食べすぎ用の胃薬の CM まである！）、そればかりか倒れるまで飲んでいる今現在の日本人が彼、彼女たちからどう見られていたのか、今もどう見られているのかにつながることとして、単に社会的マナーということではなく歴史的な事柄として考える必要があるでしょう。



読書会報告(4)

鷲尾 拓

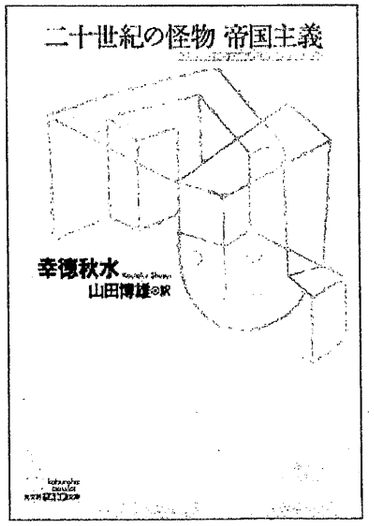
毎月開催している読書会で、クロポトキン『近代科学とアナーキズム』(中央公論社、1980)と、アルシノフ『マフノ運動史 1918-1921 ウクライナの反乱・革命の死と希望』(社会評論社、2003)等々を取り上げて来ましたが、現時点でのテクストは以下の通りです。

1. 幸徳秋水『二十世紀の怪物 帝国主義』山田博雄訳(光文社古典新訳文庫、2015)
   ホブソン『帝国主義論』(1902)、レーニン『資本主義の最高段階としての帝国主義』(1917)に先駆けて 1901 年に書かれた「帝国主義論」の嚆矢。現代語訳版。クリスティーヌ・レヴィによって仏語訳もされ(2008)、基本文献として近年は国外でも再検討されている。師・中江兆民の思想を踏まえ、徹底した平和主義を主張する反戦の書。

2. H.M.エンツェンスベルガー『スペインの短い夏』野村修訳(晶文選書、1973)
   1936 年夏、スペインで何がおこったか。一革命家の烈しく短い生涯を全く新しい手法で描く、エンツェンスベルガーの反小説。

★ 定例読書会のご案内
たまには少し真面目に本を読もう。それを仲間と共有しよう。どうせならアナキズムに関する本にしよう。毎月第4火曜日の18時半～21時に市民共同オフィスSORAで開催。テクスト・資料代・カンパ 300 円。お気軽にご参加下さい。直接会場に来て下さっても大丈夫ですが、事前に下記アドレス宛にご連絡を下されば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

free_workers_federation@riseup.net



わたしたちは、
新たに情報紙「アナキズム」の発行を開始します。

アナキズムを掲げた紙面は、これまで時代状況と運動に呼応しながら、運動者たちの手によって、さまざまな形態で編まれてきました。それらは時に戦闘的に、時にユーモアをもって、人から人に手渡され、他者との交流あるいは精神の交歓から、個々人の**内なるアナキズム**を励まし、鼓舞してきたように思います。インターネットがひろがるはるか以前、紙面に飛び交う無数の人びとの声は、国境を越え、制度を越え、人びとの**想像力**によって不可視のネットワークを生み出してきたとも思います。

2020年の現在、ソーシャル・メディアに飛び交う情報は、映像メディアのかたちをとって、わたしたちの生活に入り込んでいます。そのおびただしい量と速度によって、わたしたちの生活＝運動は速さと快適さを手に入れました。しかし、一方でそれは、立ち止まって自らが思考する力を削ぎ、他者の声に耳を傾け、交歓することで生まれる集団の力を減退させています。本紙の「新しさ」とは、全くこれまでになかったことを、資本主義の速さに合わせて無理やりに生み出そうとするのではなく、時間をかけ、**自律した生活＝運動**を自らの手で獲得するために、ゆっくりではあれ動き出そうとするものです。

人間は失敗を繰り返すことで、少しずつではあれ良い方向へ向かおうと試みます。わたしたちは、過去を振り返りながら先人の失敗を豊かな素材とし、日々の思考と実践のなかで、じっくりとアナキズムに向き合っていきます。そして、世界の仲間たちがおかれている社会・政治状況、抑圧に抗うさまざまな**運動・思想・理論**、文学・美術・映画・演劇・音楽といった**芸術の展開**、日々の生活から生まれる**表現**、これらに呼応することで、本紙を豊かな集いの場にしたいと思います。

情報は、わたしたちから一方通行に送るものではありません。情報紙「アナキズム」は人びとが集う広場としてのメディアです。書き手が読み手になり、読み手が書き手になること。この相互による思考と実践の**運動＝メディア**によって、不可視のネットワークを広げていきたいのです。まだ見ぬ仲間たちとの出会いを楽しみに、本紙の編集に取り組んでいきます。ぜひ、この**広場**にご参集を！

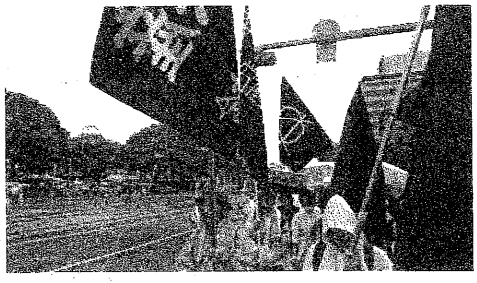
2020年1月11日
アナキズム紙編集委員会

情報紙「アナキズム」4月1日、創刊。

発行：アナキズム紙編集委員会／東京都新宿区若葉 1-9-16　地下一階
Mail: anarchism.ed@gmail.com ／郵便振替：00130-3-487884 アナキズム紙編集委員会
毎月1日発行／定価 300 円／年間購読料 3,000 円 (Mail 問い合わせ or 郵便振替)
取扱店：模索舎ほか

目 次

★ 8・6広島集会（2019年）
★ メーデー、反天憲法集会（2020年）
★ 新山初代の墓を訪ねて
★ ビンタと立ち小便
★ 情報紙『アナキズム』創刊
★ 読書会報告



編 集 後 記

◆既に2月初旬、皆様はお元気にお過ごしでしょうか。発行が遅れに遅れた「ニュースレター20号」をようやくお届けします。◆新型コロナウィルスのパンデミックが世界を覆う中、欧米日中などの帝国列強は金と技術にものを言わせてワクチン争奪戦をおこない、小国へのワクチン供与を帝国の覇権の道具とまでするおぞましい事態となっています。第三世界の貧しい民衆に接種の機会がまわってくるのは、帝国列強の全臣民が接種した後だなどというような不公正があっていいはずがありません。全世界の持たざる貧しき民とともに闘うという内実が深刻に問われているのではないでしょうか。◆約2年かけて『マフノ運動史』の読書会を終えました。次は、亡命後のマフノと会ったドゥルティを通してスペイン革命をみていきます。幸徳の『帝国主義論』も順調に読み進めています。興味のある方は、是非ご参加ください。◆月刊情報紙『アナキズム』が昨年4月に創刊されました（年間購読3000円）。現在11号まで発行され、開かれた場として投稿も随時募集しています。購読や投稿をご希望される方は編集委員会へ連絡ください。ともにアナキズムを盛り上げていきましょう。

発行：自由労働者連合
宛先：〒540-0038 大阪市中央区内淡路町1－3－11
シティコープ上町402号 市民共同オフィス SORA
電話：０６－７７７７－４９３５（受付）
Mail：free_workers_federation@riseup.net
URL：http://federaciodechifonproletoj.wordpress.com/
郵便口座番号　00960－6－145783
加入者名　自由労働者連合
※カンパあるいは年間購読申し込み（年間4部1000円）の場合、名前、住所、電話、メールアドレス等の連絡先を明記の上、お振込み下さい。